

第11回 JA あきた白神女性部大会

第11回JAあきた白神女性部大会が、1月20日にプラザ都で開催され、平成26年度の活動報告や記念講演などが行われました。



←笑顔・幸せ・感動を与えてくれた、野尻代表のパフォーマンス

260名が参加。はじめに佐々木博子女性部長が、「米価の下落や自然災害など暗い出来事が多い年だった。明日への道のりは厳しいかもしれないが、女性部の熱い思いで乗り越えていき



←女性部活動報告と次年度に向けて抱負を語る佐々木部長

たい。女性が元気にならないと地域も元気にならない。」と挨拶をしました。また、佐藤組合長からは「米の仮渡金が過去最低水準となり、直接支払交付金も半減し、水田農業は危機に見舞われた。農業を活性化するためには女性のきめ細やかな感性が必要となります。その意味でも女性部員の力が重要となる。」と話しました。

食農教育実践発表では、淳城西小学校5年生の代表6名が、昨年ジャガイモ、サツマイモ、ねぎ、カボチャの植え付けから収穫を体験して学んだことを発表しました。児童たちは、「大変な作業もあったが、収穫した時はとても嬉しかった。これが農業の楽しみだと思いました。また、自分たちの口に入るまでたくさんの方の手間や工夫がさ

れている事も知りました。とても貴重な体験ができました。」と話してくれました。

そのあと、小山内寿能代市防災危機管理室長から「もしもの時に備えて」と題した講演が行われました。昔では考えられないような豪雨などの自然災害が起きている中で、「自分の身は、自分で守る」、「自分たちのまちは、自分たちでまもる」という一人一人の自主的な防災意識と行動、そして地域のつながり、人と人とのつながりが大切であると説明しました。

午後の講演では野尻博作芸人磨心事務所代表による「夢・元氣・やる気が未来を拓く」が行われ、1人で同時に8楽器を演奏する姿に会場は驚きの声が上がっていました。また、楽器のパフォーマンスだけでなく、すばらしい歌唱力に女性部員は聞き入りアンコールの声が上がるなど大変盛り上がりしました。



←農業体験活動を発表する淳城西小学校5年生の代表6名